

告示	番号	55	悪性新生物
	疾病名	神経鞘腫	

神経鞘腫

しんけいしょうしゅ

概要・定義

分化したシュワン細胞から構成され、生物学的には良性腫瘍（WHO グレード I）である。中枢神経系腫瘍としては頭蓋内や脊柱管内の末梢神経（脳神経や脊髄神経根）から発生する。末梢神経に連続する境界明瞭で被膜に覆われた腫瘤を形成し、核の柵状配列や細胞の粗密配列を特徴とする。

症状

前庭神経に発生する前提神経鞘腫（従来聴神経鞘腫と呼ばれていたが、最近では発生母地から前庭神経鞘腫と呼ばれることが多い）と呼ばれ、その他の脳神経にも発生することがある。内耳道内の前庭神経に発生して増大すれば同側の蝸牛神経障害による聴力障害を初発症状とし、内耳道内で増大すれば同側の顔面神経麻痺を呈する。内耳道から小脳橋角部へ増大すれば、三叉神経障害や小脳・脳幹の症状を呈し、さらに増大すれば水頭症を合併する。三叉神経に発生すれば、顔面の知覚などの症状を

きたす。神経線維腫症 1 型、2 型で脊椎管内の脊髄神経根に発生しやすい神経鞘腫は、脊髄外から脊髄を圧迫して脊髄症状を呈する。神経線維腫症 2 型では両側の聴神経腫瘍が特徴的である。

治療

腫瘍の摘出が第一選択である。ある程度の大きさの腫瘍であれば、定位的放射線治療や γ ナイフが有効な場合も多い。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/1_6_88.html